

第6回 長野市活力ある学校づくり検討委員会における委員からの意見(要旨)

項目	意見 ※()の数字は意見数
授業や学習活動	少人数の学校は、一人で一つの実験を全て行うなど、子どもが責任を持って授業に取り組むことができる。
	同じような規模の学校で行事を合同で行う必要がある。(2)
	少人数の学校は先生の目が届きやすい。(3)
	少人数の学校はグループ活動が成立せず、多様な意見に触れる機会が少ない。
	少人数の学校は合唱など大きな集団での行事が困難である。
	ICT等の技術を活用して、小規模校同士の交流を図る必要がある。
人間関係や教科外活動	少人数の学校は周囲の人間関係のなかで、自分を評価できるか不安である。
	小規模校は異年齢交流が行いやすい。
	子どもが大きな集団で活動できないのは成長の面で問題がある。
学校経営・運営	学校にさまざまな機能を持たせる複合化が必要である。
	大きな学校に小規模校の子どもを集めた方が効率的である。
	少人数の学校は教員同士が実践交流し互いを高め合う面で難しさを感じる。
	少人数の学校は施設や先生の面で経済的効率が悪い。
その他・提案	小規模校と適正規模校をある程度分けて検討していただきたい。
	学習面だけでなく、地域の文化・歴史といった面も含め検討すべきである。
	子ども達・保護者にとって適正な規模を考える必要がある。(2)
	子ども達にとってのデメリットをどう解消するか検討すべきである。
	学校の活力、子どもにとっての教育の質は何か検討すべきである。
	子どもの発達段階に応じた学校の枠組みづくりが必要である。
	学校教育と社会教育の複合化という視点も含め検討すべきである。
	空いた学校施設を民間に格安に貸していただけるのはありがたい。
	学校以外の教育の面で中山間地と都市部ではギャップが大きくなる。
	スクールバス、タクシー等の輸送を効率的に行う必要がある。